

第3章

計量テキスト分析を利用した自由記述回答の整理と概観

1. 整理の目的

卒業生調査では、Q27「あなたが本学での学びから得た知識や技能などは、大学卒業後、どのような形でいかされていますか。すでにお答えいただいたこと以外で、思いあたることがあればご自由にお書きください。」として、自由記述項目を設けている。本章では、この項目への回答から、本学での学びが卒業後にどのように活用されているかを検討することを目的とする。

2. 整理の方法

整理にあたっては、「テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェア」である KH Coder を使いながら、コメント1つ1つについてソフトウェアと人間による確認を両方行うことで、網羅性を担保しつつ意味内容の確認まで行った。(方法の詳細は、章末「自由記述回答内容の整理手順」を参照)

3. 結果

3-1. コーディングの実施と結果

全 176 件の自由記述について、頻出単語一覧(章末付録表 1)を基に、網羅的にコーディングを行うためのコーディング・ルール(表 1)を作成し、コーディングを実施した。

このコーディングの後、分析者によるコーディング結果の確認を行った。確認の結果、コーディング・ルールにある単語は含まれていたが、内容がコードの定義の意味に添わないと判断した場合はコーディングを外し、反対に単語は含まれなくてもコードの定義に合致する内容であった場合はコーディングを割り振った。また、並行して、各コードについて、ポジティブな(活用できている)内容か、ネガティブな(活用できていない)内容か、その他の意見や提案であるかについて、分析者が判断を行った(表 2)。

表1 コーディング・ルール

コード名	コードの定義	対象の単語
知識	専門、一般教養かを問わず、大学で得た知識に言及した内容	知識、教養、素養、専門、専攻、講義
理解・思考力	大学での活動中に学んだものごとの理解や整理、レポート等に表現することまでの能力に言及した内容	書き方、とらえ方、論理、思考、見方、方法
態度・姿勢	大学での活動中に学んだものごとに対する態度や姿勢、価値観に関することに言及した内容	柔軟性、価値観、積極性、心掛け、目標、姿勢、考え方
対人関係スキル	大学での活動中に学んだ他者とのコミュニケーションに関するスキルに言及した内容	コミュニケーション、関わり方、プレゼンテーション、プレゼン、発表、人前、協力、対人、協調
語学	言語に関わらず、大学で学んだ外国語に言及した内容	英語、フランス語、ドイツ語、語学、外国語
資格	在学中に取得した資格に関することに言及した内容	資格、簿記、学芸員、教員
人間関係	大学で得た人間関係に関する内容	人間関係、交友、繋がり、友人、仲間
経験	特に知識やスキル、能力等に言及せず、大学での経験そのものにのみ言及した内容を含む回答	経験
その他	(上記のコーディングにかからない内容について言及している場合、筆者がコーディングを行った)	—

表2 コーディングの最終結果

	知識	理解・思考力	態度・姿勢	対人関係スキル	語学	資格	人間関係	経験	その他
活用している	42	32	38	27	6	11	17	31	6
活用していない	17	0	0	0	1	1	0	4	1
その他(意見・提案)	1	1	1	2	7	2	0	1	15
合計	60	33	39	29	14	14	17	36	22

※上記のコードが何もつかなかった回答=7件

3-2. 各コードと活用のされ方について

2. に記述したように、コーディングの後、そのコードの内容について卒業後に活用されたか否かを個別に判断した。本節では各コード別に具体的にどのようなものが含まれているか、また活用のされ方についてみていく。

「知識」コード

「知識」コードは、専門分野や基礎教養等に関わらず在学中に学んだ知識について言及している 60 件（全体の 34.1%）の回答に割り振られた。卒業後に活かされている回答（42 件、「知識」コードの 70.0%）のうち、直接的に活かされている具体例としては、まず以下のように関係する職業についたためという回答が見受けられた。

「史学の知識・経験が直接関係する職種に就いたため、卒論執筆や歴史的知識をそのまま活かしています。」

また、知識は仕事上では直接活かされていなくとも、以下のように他者とのコミュニケーションをとる際の教養として活かされていることも見受けられた。このようなコメントは、卒業後の生活で活用している例とみなした。

「仕事で直接的な関わりや役立つ分野ではありませんでしたが、”知っている”ことで教養となり、お客様や同僚との会話に広がりが出たと思います。」

これと同様に、自分の人生の豊かさにつながっているというコメントが見受けられ、このようなコメントも卒業後の生活に活かされている例とみなした。

「現在の職種では特に役立つことはないが、大学で興味のある分野の知識を得たことが、現在の人生の豊かさにつながっている。」

「知識」が卒業後に活用されていないというコメントは、17 件（「知識」コードの 28.3%）で見受けられた。具体的には、以下のような、端的に役立っていないことを述べるコメントや、他の能力等と比較すると「知識」は活かしていないことを示すコメントが見受けられた。

「ほぼ大学で身につけた知識が役立っていると感じたことはないです。」

「専門的な知識は特に仕事に役立ってはいませんが、広く人間関係や考え方の部分で大切な事を教えていただいたと感じています。」

最後に、「知識」に関する意見としては、以下のようにカリキュラムに関するコメントが見受けられた。

「法学部でも総合基礎科目をとれるようにすべき。在学中は専門を深めることが大事との考えかもしれないが、卒業してから専門外の教養は人間関係上役に立つと考えます。」

「理解・思考力」コード

「理解・思考力」コードは、ものごとに対する理解の仕方や、捉え方、また論理的な思考力に関する内容に言及している 33 件（全体の 18.8%）の回答に割り振られた。このうち、1 件を除く全回答が卒業

後に活かされているという内容と判断された。これらの回答は、以下の具体例のように、在学中の授業や課題、実験、研究、論文等に取り組む中で身についた理解力・思考力が、卒業後の仕事や生活において活かされているという内容であった。

「私は大学の専攻分野とはほとんど関係のない業界へ就職しましたが、在学中の実験、実験レポート、卒業研究等で培われた論理的思考（筋道を立てて物事を考える力）は、現在の仕事にも活かしていると思います。」

「哲学科においては論理的に物事を考え、授業や論文に臨んでいったため、職務においても論理的に業務を遂行するにあたり大変活かされていると考えます。」

以下のコメントは、「理解・思考力」コードに関わる能力を持つ人間が社会的に需要があることを実感したというコメントであったため、その他のコメントとして分類した。

「直接的には役立っていない。論理的思考の出来る人間が、どこでも需要があるということは実感している。」

「態度・姿勢」コード

「態度・姿勢」コードは、ものごとに対する態度や姿勢、また、価値観に関することに言及している39件（全体の22.2%）の回答に割り振られた。このうち、1件を除く全回答が卒業後に活かされているという内容と判断された。これらの回答は、以下のように在学中の授業や課外活動等での他者との関わりの中で求められて積極性などの姿勢が身についたり、多様な他者との関わりの中で価値観の多様性を知ることで理解し受け入れる態度が身についたりしたという内容であった。

「卒業学科とは全く異なる業種の仕事に就いています。しかしながら、大学の授業は少人数制で、常に自分の意見を発信すること、主張することを求められていましたので、そうした心掛けは今の仕事にも活かされていると思います。」

「日本語教育活動での人との関わりや、サークル活動での人との関わりで、色々な立場の人を受け入れ、お互い理解し合うことを学んだ。国籍や文化の違いはもちろん、生活環境や大学に通う目的などの違いがとても刺激になりました。また、これらの経験により、社会での理不尽な仕事や人間関係においても相手の立場になって受け入れる事ができています。」

以下のコメントは、プロ意識を持って社会に関わることの重要性を感じているというコメントであったため、その他に分類した。

「たとえ学士であっても、自分の専攻した分野のプロという意識をもって、社会に関わることはとても重要です。」

「対人関係スキル」コード

「対人関係スキル」コードは、他者とのコミュニケーションに関するスキル等に言及している29件（全体の16.5%）の回答に割り振られた。このコミュニケーションには、発表やプレゼンテーションに関する内容も含まれる。このうち2件を除く全回答は、学んだ内容が卒業後に活かされているという内容であった。これらの回答は、以下のようにゼミや課外活動等での他者との関わりの中で、人との関わり方

を学べたことで、卒業後に人間関係を築く際に活かしているという内容であった。

「日本語の学びから、人との関わり方・場の捉え方が言葉に影響することを学んだことは、実生活に深く結びつき、私の人間関係を築くなかでの大きなサポートになっています。」

「正直大学での学びの中でいかせてるものはないが、ゼミやサークル、アルバイトなどでの周りとの協力の仕方、社会との接し方での学びは大いに役立っています。」

また、以下のように、対人関係スキルについてあまり学習機会がなかったというコメントが2件あり、これらはその他（意見・提案）に含めることとした。

「技能については、グループで学習する機会があまりなかったので、仕事で他者（同僚、顧客）とのコミュニケーションについて実践をつみました。」

「学生時代の勉強は知識の吸収に偏っており、発信する力が不足していたと、振り替って思います。」

「語学」コード

「語学」コードは、言語に関わらず大学で学んだ外国語について言及している14件（全体の8.0%）の回答に割り振られた。「語学」に関しては、以下のような具体的に海外で仕事を行う際に活かされているというコメントがあった。大学の短期語学プログラムなどを肯定的に評価するコメントを含めて、肯定的な回答は6件であった。

「卒業後、インドのNGOに就職し、道徳と体育（課外活動での空手）をインドの学校で教えました。これらは哲学科の学習内容（東洋思想）と課外活動、外国語すべてをもってなしたものです。その意味で大学での学習は非常に大きな意義を持ちます。」

「語学に関しては、高い水準での教育を受けられたと思う。特に休み期間に行った短期語学プログラムはすごくよかった。講師の方もプライベートの資格勉強のフォローもしてくれた。会社に入り、同じように語学の学校はあったがあまりにレベルが低くすぎて落胆した。」

「語学」での否定的な内容としては、学んだ語学が就職時にプラスにはならなかったというコメントであった。

「フランス語はビジネスで使えるほど堪能でなければ何も就職にはプラスにならない。」

「語学」に関するコメントのうちその他に分類されたものは、語学の授業が充実していなかったというコメントや語学の自らの学習についてもっと積極的であればよかったという内容で、4件であった。

「英米文学科に在籍しておりましたが、より実用的（実践的）な英語を学ぶための努力をすればよかったと感じています。」

「語学の授業がもっと充実していればよかったと思う。（TOEIC対策の授業などがあつたらよかった）」

「資格」コード

「資格」コードは、大学の課程内外を問わず、在学中に取得した資格について言及している14件（全体の6.3%）の回答に割り振られた。「資格」に関しては、以下のように在学中に取得した資格を活かし

て就職・仕事をしている、というコメントを含めて、肯定的な回答は11件であった。

「*日文の日本語教育系で学びましたが、現在日本語教育に携わっています。教職もとり、国語教育にも従事しています。大学で学んだことが今の生活を形成しています。全ての基礎です。知識だけでなく、考え方や研究の仕方も、丸々役立っています。*」

「*本学の生涯学習センターを利用して取得した秘書検定・医療事務の資格が、現在正社員として勤めるこの仕事に就くことに大きくつながりました。*」

「資格」に関することで活用していないというコメントは、進路とのつながりが全くなかったというものであった。

「*資格・就職支援プログラムなどは私の進路が独特だったこともありますが、全く関係はしていません。*」

「資格」に関する意見としては、以下のように資格取得を現状以上に支援する環境を望むコメントが見受けられた。

「*学習院らしい高貴且つ朗らかな情緒は大切にしつつもより実践的なことを学べ、高い英語力（少なくとも toEIC 800）、簿記や法律系などなどの資格取得を目指せる環境を望みます。*」

「人間関係」コード

「人間関係」コードは、ゼミ、部活動、サークル活動などで培われた人間関係について言及している17件（全体の9.7%）の回答に割り振られた。全てのコメントが、大学時代の人間関係が卒業後に活かされており、以下のように就職先の会社で学習院大学の先輩や後輩がおり相談がしやすい、卒業後の生活の心の支えとなっている、このような人間関係が財産になっているといったものであった。

「*現在の会社には学習院大学のOBOGの先輩後輩も多くいる為、いつでも相談できる環境を頂くことができます。今の私にとっては、そういった人間関係を形成することができたことが一番大きなことと思っています。*」

「*在学時に学習したことが直接今の仕事に活かされているわけではありませんが、大学で学んだこと、経験したこと、大学でできた交友関係が今の私を支えていることは間違いありません。*」

「*大学で培った人間関係が何よりも財産になっていると思います。*」

「経験」コード

「経験」コードは、具体的な知識、能力、スキル等に言及はないが、経験したことそのものが卒業後に活用できているという36件のコメント（全体の20.5%）に割り振られた。以下のように、何かの活動の経験が役に立っているというコメントが見受けられた。

「*サークル活動で得た経験、技術は今の仕事（カメラマン）に活かされていると思う。*」

「*在学中の実習や海外研修、サークル活動（日本語教室）での経験が、大変役に立っています。*」

また、以下のコメントに関しては、経験全体として役立っていないとして、「経験」を活用できていないコメントとした。

「大学時代の経験は私の目標とするものに全く役に立たないどころか、無駄にストレスと年数だけを重ねてしまっただけでした。入りたいサークルや部活もなく、一人黙々と読書と学業に励みましたが、実社会で大学での経験がお金を稼ぐこととは全くつながらず、ただの無駄なモラトリアムだったと感じています。」

さらに、以下のコメントは大学の教育全般への意見として、「経験」に対する意見・提言と捉えた。

「大学で得た専門分野を活かした仕事をするのは厳しいと思います。発表やレポート提出等を積極的に行うべきだと思います。」

その他

その他のコメントとしては、以下のような大学の設備や学習環境に関する肯定的なコメントが見受けられた。

「学習院大学は他の首都圏の総合大学に比べ生徒数が少ないにも関わらず、図書施設や学習環境が非常に整っており、学習意欲がある時期に大きなメリットを感じていました。私は経済学科でしたが法経棟の充実ぶりには当時大変満足していましたし、今後も強力な武器として更に施設を充実させて行って欲しいです。」

「ゼミに関しても少人数で、生徒1人1人の話をよく聞いてくれた。ある環境でなかったら続けられなかったという甘えもあるが、自分が好きな学問を仲間と研究できたことは貴重な時間だったと思う。」

その他のコメントに関しては、意見や提案が15件であり、大学の体制等に関するものが見受けられた。

「一言でいうと、学習院は存在感が薄い。体質の古さがその原因の一つだと思う。これと思うセールスポイントを早く打ち立てて、世間に大々的にアピールしてほしい。学習院は元気がない。変わるべき時だと思う。」

「大学を単なる職業訓練の場としてではなく、様々な文化や考え方に触れることで、人生を豊かにする場にしていただきたいと思います。」

「内向的な大学の校風がいい面もありますが、留学や他大学との交流といった面ではとても風通しがいいとはあまり思えません。キャリアに関することをもっと、地方から出て来る学生に対してのケアを厚くした方がいいと思います。国際交流や外国人のサイトをもっともっと受け入れるなど積極的に学習院という名前をうってほしいとおもっています。」

4. まとめ

以上、各コードについて具体的な回答内容を見ながら、学習院大学での学びの成果がどのように活用されているかを見てきた。概要としては以下のように集約できるだろう。

- 大学時代に専門として学んだ知識は、専門に関する仕事に就いた卒業生は活用できていると感じている。そうではない場合はあまり活用できているとは感じていないが、他者（ビジネス場面の顧客等）とのコミュニケーションを円滑にするような「教養」として活用できているというコメントも見受けられた。

- ・人やものごとへの理解力や、学んだ内容を整理したりするための思考力は、大学で学ぶ中で培われ、卒業後においても活用できている。
- ・在学中に多くの他者と関わる経験は、対人関係スキルの習得だけではなく、多様な価値観を知ることにもつながり、他者を受け入れる姿勢が身についたというコメントも見受けられた。
- ・大学在学中に築いた人間関係について、人間関係そのものが卒業後の人生の財産となり、卒業後の生活を豊かにできているというコメントも見受けられた。
- ・語学は、短期研修プログラムや授業などをうまく利用できたというコメントもある一方、卒業後に活用できるレベルにはならなかった、もっと学べるようにしてほしいといったコメントも見受けられた。
- ・資格に関しては、取得した資格に関係した仕事をしている、就職の際に活用できたといったコメントも見受けられた。

■自由記述回答内容の整理手順

卒業生が回答したコメントの整理を行うにあたって、KH Coder (version : 3.alpha.13L, 2018) の機能 (形態素解析とコーディング機能) を用いた。KH Coder は「テキスト型 (文章型) データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア」であり、抽出する特定の語を設定できることや、回答の内容をコーディングする際に網羅できることと、フリーソフトウェアであり費用の面で有用であることを理由として利用した。しかし、KH Coder は文中に含まれる「語」についての解析ソフトウェアであるため、その語が肯定的あるいは否定的に用いられているかなどの意味は判別できない。このことから、KH Coder の機能を用いつつ、分析者による確認と再コーディング、意味の判別を行うことで、整理の目的を達成できるようにした。具体的な手順は以下の通りである。

【コーディングの手順】

- ① KH Coder を用いて、形態素解析を行い、単語を網羅的に抽出する。
- ② 単語と内容を検討しながらコーディング・ルールを検討する。
- ③ KH Coder によるコーディングを実施する。
- ④ KH Coder によるコーディングの結果を、分析者が確認し、必要な場合に再コーディングを行う。同時に、そのコードについて、ポジティブ (活用できている)・ネガティブ (活用できていない)・その他 (〇〇を学べるようにしたほうがよいという大学への提案など) に意味の判別を行う。(最終コーディングの決定)
- ⑤ コーディングの差異を見ながら、コーディング・ルールを再検討する。
- ⑥ 再検討したコーディング・ルールでコーディングを実施する。
- ⑦ コーディング・ルールと最終的なコーディングの差異率の検討。

④において、KH Coder による網羅的なコーディング結果から、分析者による再コーディングを行ったのは、単語が含まれていても目的と合致しない使用の仕方である回答や、関連する単語を含まないがいずれかのコーディングと同様の内容に言及していると判断された回答があったためである。結果として、KH Coder によるコーディングから変更のなかったものの割合をコード採用率として計算したところ、全体の採用率は 89.6%であった (付録表 2)。再コーディングを行った後、その他を含むコードが何も振られなかった回答は 7 件であった。コードの種類別にコード採用率を見ると、最低が「経験」の 80.7%であり、最高は「語学」の 98.3%であった。

また、この再コーディングと同時に、ポジティブな内容、ネガティブな内容、あるいはその他の内容、のいずれに該当するか、分析者の判断により分類を行った。これは、質問項目は「どのような形で活かされていますか」であるが、実際の回答には、「〇〇はあまり活かされていない」といったものや、「〇〇を学べるカリキュラムにしてほしい」といったものなどが含まれており、これらの判別が必要であったためである。

また、このコーディングでは、一つの回答に複数のコードが振られる (一つの回答が複数のコードに該当する単語を同時に含む) 場合が多数存在するが、その意味の判断はコードごとに行った。

なお、⑤～⑦は、次年度以降の自由記述回答の整理に用いることを意図して、コーディング・ルールの妥当性を高めることを目的とした振り返りの作業である。

今回は、KH Coder による解析やコーディング後の意味内容の判断を行ったのは1名の分析者によるものである。本報告書に含まれる回答内容とコーディングや意味については、複数の人間による確認と合意を経ているが、すべての回答やコーディングについて複数人の確認を行うことには使用できるリソースの関係上限界がある。したがって、本報告の結果の信頼性や妥当性についても限界があるが、次年度以降も課題として、整理の方法の検討を進めていく予定である。

付録表 1 頻出単語上位 150 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	120	部	14	政治	9
大学	115	文章	14	正直	9
仕事	72	学び	13	生徒	9
学ぶ	65	教育	13	積極	9
経験	58	作成	13	日本	9
今	55	受ける	13	能力	9
活動	53	内容	13	付ける	9
知識	51	論理	13	簿記	9
自分	49	学問	12	コミュニケーション	8
現在	45	教員	12	課外	8
活かす	42	興味	12	業務	8
学習	41	資格	12	経済	8
役立つ	40	時間	12	交流	8
感じる	38	実感	12	高い	8
考える	38	人間	12	仕方	8
人	36	直接	12	実験	8
学生	34	日本語	12	少ない	8
授業	34	必要	12	知る	8
学科	32	友人	12	入学	8
時代	32	機会	11	目標	8
卒業	32	強い	11	理解	8
生活	30	取り組む	11	意識	7
力	30	取得	11	意味	7
ゼミ	28	人間関係	11	一番	7
社会	28	全く	11	演習	7
多い	28	文学	11	課題	7
勉強	26	問題	11	学べる	7
身	25	レポート	10	教養	7
関係	23	科目	10	経営	7
就職	23	活きる	10	使う	7
得る	23	環境	10	資料	7
教授	22	基礎	10	自ら	7
役に立つ	22	教える	10	自由	7
会社	19	言う	10	就く	7
学習院大学	19	出る	10	出来る	7
先生	19	書く	10	情報	7
良い	19	卒論	10	全て	7
様々	18	多く	10	伝える	7
サークル	17	大切	10	入る	7
研究	17	働く	10	文科	7
専門	17	物事	10	無い	7
在学	16	文化	10	歴史	7
技能	15	論文	10	話	7
特に	15	意見	9	アルバイト	6
分野	15	英語	9	キャリア	6
考え方	14	感謝	9	英	6
講義	14	見る	9	会話	6
人生	14	語学	9	海外	6
専攻	14	持つ	9	楽しい	6
非常	14	自身	9	関わり	6

付録表2 KH Coder によるコード採用率

コード名	知識	理解・ 思考力	態度・ 姿勢	対人関係 スキル	語学	資格	人間関係	経験	全体
変更のなかった回答	154	154	152	158	173	166	162	142	1261
全体の回答数	176								1408(※)
コード採用率	87.5%	87.5%	86.4%	89.8%	98.3%	94.3%	92.0%	80.7%	89.6%

※コード（その他を除く）の種類8つと回答数176件をかけた1408を全体の一致率計算に用いた。